



港区立高松中学校 学校だより<第10号>

令和6年3月18日 校長 中山 幸子

創立1949年(昭和24年)

<高松中生のあたりまえ>推進校

港区高輪1-16-25

『制限時間は あなたのこれからの人生 解答用紙は あなたのこれからの人生』 (RADWIMPS「正解」より一部抜粋)

1・2年生の皆さん、これは何か知っていますね。3年生は当然分かっていることでしょう。保護者、地域及び関係機関の皆様にも説明いたします。上記は卒業式で卒業生が合唱する歌の一部です。

ご存じの方もいらっしゃると思いますが、サビの部分として「ああ、答えがある問いばかりを教わってきたよ そのせいだろうか」が何度か登場します。これに続く歌詞に共感をする人もいると思います。

中学生になると勸善懲悪では物事が終わらない理不尽さを知ったり、その時の選択した答えが本当によかったのか分からない経験をしたりもします。思春期のもどかしい思いや素直になれない自分へのいらだち、かけがいのない友人との大切な時間等きらきらした時期を過ごすとともに、複雑化した対人関係に悩みます。

どうしたらいいのかわからないものこそ、自分で探さなければならない『答え』なのかも知れません。

このサビについて、校長として“学校は答えがある問いだけを教えているのではありません。”とお伝えしたいのです。もちろん、答えのある授業が多くあるもの事実です。一方で幾通りもの考えや答えがある授業や特別活動なども実施してきました。

本校の教職員は生徒一人ひとりの成長と課題を掌握するよう務め指導、支援を行って来ました。

時には生徒とともに、時には生徒の背中を押して何が「正解」なのかを探るかかわりをしてきました。

3年生の皆さんは自分で考え行動して、何が答えなのか自分なりの正解に辿り着くプロセスを経験してきたはずです。

今後は“明日からは僕だけの正解をいざ探しにゆくんぞ”とあるように、どうか、自分を信じて周囲の人と助け合って、その時の**最適解**をたぐり寄せる人になってほしいのです。

“答え合わせの時に私はもういない”高松中学校の教職員はそばにはいません。

けれども、いつでも応援しています。

卒業生を支えてくださったご家庭、地域・関係機関の皆様にも深く感謝いたします。

明日は卒業式です。心に残る時間にしたいと心から思います。

また、本号で令和5年度の学校だよりは最後となります。

1年間、高松中学校へのご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございました。

次年度の令和6年もこれまでと同様に、よろしく願いいたします。